

基地航空祭のなくなるのは何時？

……平和な浜松市を市民の手に……

◎今年もまた、基地航空祭が近づいて来ました。耳をつんざく戦闘機の爆音が、基地周辺をはじめ、浜松の空をわがもの顔に制圧するでしょう。腸（はらわた）をえぐるような実戦機の爆音を、あなたは聞いたことがありますか。耳をふさいで気が狂いそうになるでしょう。ところが、その恐ろしい航空祭に、市内からだけではなく、近県から見物するために何万という人々が集まって来ると言われます。怖いもの見たさに集まって来るのでしょうか。

◎軍隊（自衛隊）は、戦争のための人間の集団です。小銃も、機関銃も、大砲も、戦車も、ミサイルも、みな戦争のための道具です。広大な基地も、戦争のための施設です。もちろん、浜松基地の戦闘機も殺人と破壊を目的とした戦争の道具です。すべてが人間を否定し、抹殺する凶器です。このような野蛮な「出し物」を見物する人間が一人もいなくなる日は来ないものでしょうか。その時こそ、日本から基地航空祭がなくなる日でしょう。

◎日本国憲法第九条には、「戦力不保持」「戦争放棄」が、鮮明に記されています。その憲法を破り、ないがしろにする国は、法治国家とは言えません。国が、法律を無視するお手本を示しながら、どうしてそこに正しい子供たちが育つのでしょうか。基地航空祭は、憲法違反の軍隊（自衛隊）を、お祭り騒ぎで宣伝するものです。

◎平和を愛する市民の皆さん、五一年前の太平洋戦争の末期、焼け野原となった浜松市のことを思いだし、爆音のない、平和な市（まち）を市民の手に取り戻そうではありませんか！

一九九六年十一月十日（日）・第三五七回憲法を守る平和行進

浜松市憲法を守る会
事務局 浜松市紺屋町三〇一の十五